



【町内説明会終わる】

皆さん、こんにちは。9月7日から始まった町民説明会が一通り終わりました。9月10日には、寿都本町での説明会も行われ、263人が参加しました。マスコミ各社にも公開され、18時半から3時間にわたって議論が続きました。21人の町民が片岡町長に質問を行いました。はぐらかすような回答ばかりでした。女子小学生の「安全なの?」という質問に対しても、「私も安全なのか安全でないのか、説明するだけの能力を持ち合わせておりません。だから(応募して)いっしょに勉強しましょう」という答えに終わるなど、とても納得のゆく議論とはなりませんでした。

【記者会見】

9月10日の寿都本町での説明会の前に、当会は、マスコミ各社(道新・朝日・毎日・読売・日経・共同通信・NHK・HBC・STV・UHB・HTB)を呼んでの記者会見を行いました。共同代表となった4人が前列に、その他の会員が後列に並び、それぞれの思いを訴えました。設立趣旨書や要望書なども紹介し、質疑応答も行われました。町のマスコットキャラクター風太くんが、漫画家本庄敬さんのメッセージを持ってきてくれるというハプニング(?)もありました。

「町長ばかりが目立っていて、寿都の人たちはおとなしいね」という感想を洩らした記者が過去にいましたが、決してそうではないという姿を知ってもらえたと思います。



記者会見



説明会後のぶらさがり取材

【声明文を公表、公開質問状を提出】

町民の会では、9月23日に声明文を公表するとともに、片岡町長へ公開質問状を提出しました。その要旨をお知らせします。(全文はFacebookページにて公開しています)

<声明文(要旨)>

町民説明会(本町地区)において、高レベル放射性廃棄物最終処分場選定の文献調査をどうすれば止めてもらえるのかと問われた片岡春雄町長は、「町民の51パーセントが反対すれば」と返答した。しかし、その5日後には「核のゴミを持ってくるがごとく署名運動をしている。(文献調査応募とは)趣旨が違う」と、事実上の発言撤回を行った。都合の悪い発言は撤回し、町民の意思は自らの都合のいいようにねじまげる片岡町長に抗議する。

また、9月18日に、NHKが非公開の町議会の全員協議会の議事録を入手し、「当初は8月中にも応募決定の方針」だったというスクープ報道を行った。それによれば、8月中にも文献調査に応募する意思だったこと、住民説明会を行う意思がなかったことが明らかになった。これは、町民への裏切り行為であり、地方自治における住民の権利侵害である。住民説明会では、「私も分からないから、一緒に勉強しましょう」と片岡町長は繰り返していたが、そんな意思はなかったということが明白になった。また、「片岡を信頼して欲しい」と述べていたが、まったく信頼できないことが分かった。片岡町長はそれを認め、まず全町民に謝罪するべきである。また、高レベル放射性廃棄物最終処分場の文献調査への応募は直ちに断念すべきである。

なお、寿都町情報公開条例に基づき、私たちは早急に同議事録の公開を求める所存である。

<公開質問状(要旨)>

以下の質問事項について、9月28日までに書面にてご回答願いたい。

1. 略

2. NHK の報道によれば、最終処分場を受ける意思がないのに、文献調査や概要調査のみを受け入れ、お金だけをもらう意思を明確にしていたようだ。これは、国や国民に対する背信行為とも思われるが、どう考えているのか、またそのような行為により寿都町民の名誉を傷つけたことを認識しているかどうかを伺いたい。

3. NHK の報道によれば、8月中にも文献調査に応募する意思だったこと、住民説明会を行う意思がなかったことも明らかになった。これらの裏切り行為について、町民に謝罪していただきたい。

4~6. 略

7. 公約になかったこと、しかも、町の将来を大きく揺るがせることを、町民に隠し独断で持ち込んだ責任を取るべきではないかと私たちは考えるが、貴殿はどうお考えか。

8. 寿都町民を無視し、信頼を裏切った行為、国や省庁への背信的な行為を独断的に行い、寿都町民の名誉を著しく損なった行為、また、周辺町村・関係機関や北海道との軋轢をも生じさせた行為、これらすべての許しがたい行為にもとづいて貴殿が独断で行おうとしている「高レベル放射性廃棄物最終処分場の文献調査への応募」は、直ちに取下げていただきたい。

【若い世代の声】

片岡町長は「若い世代の問題だ」とも発言しています。そこで、寿都の若い世代に話を聞いてみました。

「町長は、これからは若い人たちの時代だからって言うけど、それって僕らのことじゃないですか、僕らの意見も聞かずに話を進めるのは納得できません。僕らこれから札幌とかに出て、友達ができ、その友達に寿都の良さを伝えたいのに、それが出来ないのが悔しいです。みんな寿都のこと好きだからみんな反対だと思いますよ」(男子高校生)

「原子力発電はトイレのないマンションと言われています。それでは、寿都はこれから原発のトイレになってしまうんですか？ トイレがなくては、人は生きていけませんが、トイレに人は住むことはできないと思います。寿都は原発のトイレになってしまうんですか？ 寿都は寿の都ではないんですか？ 僕には一歳になったばかりの弟が居ます。弟は原発のトイレの町で育っていかなければならないのでしょうか？ 大きくなったら寿都のことを弟に何と説明したらよいのでしょうか」(男子高校生)

【本庄敬さんからのメッセージ】

いま、僕らは「寿都」という町に試されてるような気がします。

この町をどう愛しているのか？

この町に暮らす人たち、この町を故郷と思いを寄せる方々...

みなさん考えましょう、「寿都」を、「寿都」のことを。

そして動き出してください！

「寿都」の未来のために！！

子どもたちの未来のために！！

2020年9月10日



本庄敬さんが風太くんにお友達を作ってくれました。「幸せを運ぶ不思議な生きもの、麒麟。仁徳を備えた伝説の獣、他者への慈しみと思いやりを持った仁獣と言われる麒麟の子どもです」とのこと。当会に命名を任せていただき、会員の子どもたちが激論を戦わせ(?),風麟(ふ~りん)となりました。本庄さん、ありがとうございます。皆さん、風太とともに風麟(ふ~りん)もよろしく願います。

なお、本庄さんのイチオシだった「こっこ」は奥さんにあっさり却下されたそうです(笑)。

【調査は途中で引き返せる?】

1. 梶山大臣の文書

文献調査に応募すると引き返すことができず、概要調査・精密調査・処分場建設と進むのではないかと。町民の憂慮の声を聞いた片岡町長が梶山弘志経済産業大臣に照会し、9月2日、梶山大臣から文書が届きました。

その文書には次のようにあります。「文献調査後の概要調査地区等の選定に当たっては、特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律(平成12年法律第117号)第4条第5項に規定されているとおり、「当該概要調査地区等の所在地を管轄する都道府県知事及び市町村長の意見を聴き、これを十分に尊重」することとしており、経済産業大臣として、当該都道府県知事及び市町村長の意見に反して、概要調査地区等の選定を行うことはありません」。

2. 文書の問題点

当会で、梶山大臣の文書について、その法的意味を弁護士に問うたところ、以下の2点について指摘を受けました。

①この文書は、法律の範囲内で対応すると言っているに過ぎません。「尊重」した結果として反対意見を押し切る、あるいは首長を懐柔して「賛成」の意見を取り付けて寿都町を概要調査地域として選定する、ということは十分に考えられます。

②「尊重する」とされているのは町民や道民の意見ではなく、町長・知事の意見というところにも留意しなければなりません。また、町長・知事の意見については、あくまでも選定時点での意見ということになる、ということにも留意が必要です。

この問題については、現在、札幌弁護士会の公害・環境部会で正式に対応してもらうことになっています。

【当会について】

現在、当会には14人の正会員(町民)、16人の賛助会員(町民)、6人の賛同人(町外)で活動しています。このような活動をしたことのないメンバーばかりで、手探り状態で進んでいますが、片岡町長の発案に反対する決意、寿都をもっと良い町にしたいという熱い気持ちは、だれにも負けません。10月にも応募を検討しているという片岡町長を踏みとどまらせるべく、必死に動いていく覚悟です。ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

「子どもたちに核のゴミのない寿都を! 町民の会」

事務局 048-0401 寿都郡寿都町字新栄町 101-6 TEL/FAX: 0136-62-3630

kakugomino@gmail.com

Facebook ページもできました。「子どもたちに核のゴミのない寿都を」で検索を!